

# 巻頭言

技術センター長 山本 陽介



広島大学は、教育・研究活動における全学的な技術支援体制の構築と、それを担う技術職員の技術および技能の発展継承をねらいとして、平成16年4月、大学法人化を契機に広島大学技術センターを設置し、すべての技術職員の所属をそれまでの各部局から全学組織としての技術センターに一元化しました。これまで、技術職員の方々は、それぞれ多様な役割に基づいて、全学・研究科・センター・研究グループなどの研究と教育に多大な貢献をしてきたと自負しておりますが、ややもすると、個別の努力の集合という形であったために、努力の割には成果が見えにくい、組織的な壁もあって動きにくい、などという欠点もあったと思います。しかし、技術センターとして全学組織化され、前技術センター長の藤久保先生等のご努力により、明確な目標を持って、研究・教育への貢献、地域社会への貢献などに対して、柔軟に活動できるようになってきました。また、今年度から、本格的に業務依頼・派遣システムが機能し始め、全学などでのさまざまな教育・研究ニーズを明確に把握出来るようになってきたことにより、技術職員の派遣等にも柔軟に対応できるようになりつつあると感じます。そのため、全学の中で技術センターの重要性が、はっきりと認知・確立されてきたと思います。

しかし、これからの次期中期目標期間中は、大学教員・職員の定員削減がさらにかなり進行する予定で、研究科再編なども現実味をもって語られるようになってきています。大学にとって最大の使命である教育・研究に対して、技術センターとしてこれまで以上に効率的に貢献していく必要があるのは間違いありません。技術職員の方々にとって働きがいがある職場環境が、大学の発展と直結できるような効率的な組織作り・連絡体制作り・人材育成など、まだ検討しなければいけない問題も多々あります。

技術職員の方々も含めた教員・事務のご理解とご協力により、さまざまな問題をできるだけみんなが幸福になれる方向で検討させていただければ幸いです。是非よろしく願い申し上げます。